

2023年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第4大会（第7戦/第8戦） 参戦レポート

8月26日（土）～27日（日）、鈴鹿サーキット（三重県）で2023年FIA-F4選手権シリーズ第4大会（第7戦、第8戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5 三井優介（2002年04月21日生まれ、21歳）、#6 野村勇斗（2005年11月12日生まれ、17歳）、#7 森山冬星（2003年1月10日生まれ、20歳）の3人が参戦しました。

三井、2連続ポールトゥウインを飾る

■公式予選（20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ



8月26日（土）、鈴鹿サーキットは、早朝から気温が上昇し、ドライコンディションで公式予選セッションが午前8時05分から20分間、A組2台の予選セッションが行われました。#6 野村は中団でコースインすると、十分タイヤが暖まった3周目、2分09秒131を記録してトップに立ちました。#6 野村はそのままタイムアタックを続け、全セクターでファステストタイムを更新して2分08秒923を記録、ライバルを突き放しました。1周置いた5周目には2分09秒008を記録してセカンドタイムでもライバルを上回りました。

セッション開始後13分が経過した段階でコース上に停止車両が発生したためセッションは赤旗で中断され、午前8時23分に残り3分で再開されましたが、ベストタイム、セカンドベストタイムともライバルは追いついてこないと見た#6 野村は、タイヤを温存するためピットにとどまってセッションを終え、そのままA組のベストタイム、セカンドタイムを確保しました。

曇り空から太陽が射し始める中、B組の公式予選セッションは、A組の赤旗中断の影響で5分遅れの午前8時40分に始まりましたが、各車タイヤのウォームアップを進めている最中にコースオフ車両が発生、セッションは赤旗で中断されました。

午前8時47分、残り17分23秒でセッションは再開されました。その直後、タイムアタックに入った#5 三井がアタック1周目に2分08秒874を記録、トップに立ちました。#7 森山は#5 三井に遅れて2周目にタイムアタックを行い、2分09秒340を記録して3番手につきました。



その後#5 三井はタイムを2分08秒854へ短縮してB組トップのポジションを固めB組セカンドベストタイムも確保すると、セッションを4分残してピットへ戻りました。一方#7 森山は周回を重ねますがなかなかタイム短縮ができ

ず、そのままチェッカーフラッグを受け、自己ベストタイムではB組3番手、セカンドベストタイムではB組4番手に終わりました。

B組で#5 三井が記録したトップタイムはA組で#6 野村が記録したトップタイムを上回っていたので、第7戦のスターティンググリッドはポールポジションが#5 三井、2番手が#6 野村、5番手が#7 森山、第8戦のスターティンググリッドはポールポジションが#5 三井、#6 野村が2番手、#7 森山が7番手と決まりました。

第7戦公式予選結果

予選B組1位 #5 三井 優介 2分08秒854 (1番手スタート)

予選A組1位 #6 野村 勇斗 2分08秒923 (2番手スタート)

予選B組3位 #7 森山 冬星 2分09秒340 (5番手スタート)

第8戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選B組1位 #5 三井 優介 2分08秒874 (1番手スタート)

予選A組1位 #6 野村 勇斗 2分09秒008 (2番手スタート)

予選B組4位 #7 森山 冬星 2分09秒591 (7番手スタート)

■第7戦決勝レース（11周）：天候/晴



照りつける夏の太陽の下、気温33度という厳しい酷暑の中、FIA-F4日本選手権第7戦決勝は、26日（土）午後2時10分にフォーメーションラップが始まり、午後2時15分にスタートが切られました。

スタート合図と共に、ポールポジションの三井がうまく加速、進路をイン側に振って2番手の野村を押さえ込みながら1コーナーへ飛び込みました。三井の背後につけた2番手の野村は、アウト側に加速した中村選手に並びかけられ、1コーナー、2コーナーと並走に持ち込まれてS字コーナー入り口で先行を許し3番手へ後退しました。ところが後方集団でアクシデントが発生し、セーフティーカーが介入しました。この時点でトップは三井、3番手が野村、5番手が森山でした。

車両回収後、レースは4周目からリスタートされましたが、三井はリスタートに向けてシケイン手前までスロー走行を続け、そこから加速すると並ぼうとした中村選手をうまく押さえ込んで、トップの座を守ったまた1コーナーへ飛び込みました。また、野村、森山も前を走る選手に迫りました。



しかし5周目、130Rでアクシデントが発生し再びセーフティーカーが介入しました。この時点で順位は三井がトップ、3番手が野村、5番手が森山でした。レースは7周目から再開され、三井は前回とは異なり130R立ち上がりから加速、2番手を振り切ってトップを守り1コーナーへ進入しました。一方後方では野村、森山がそれぞれ進路をアウト側へ振って前を走る選手に攻め寄り順位を入れ替えようとしていました。



結局野村は順位を入れ替えることが出来ませんでした。森山は前を行く小林利徠斗にアウト側に並んでオーバーテイクしようとしていましたが内側から押し出されるように接触を受け、森山は右リヤの足回りを破損、スピンアウトしてグラベルにはまり、レースから脱落してしまいました。

トップを守る三井は、後続を振り切ることができないまま約コンマ3の間隔を守って周回を重ね、野村を含む3車での接近戦となりましたが、9周目に後方でまたもやアクシデントが発生、10周目にセーフティーカーが介入しました。レースは結局このセーフティーカーが先導したまま11周を走りきってフィニッシュを迎え、乱戦を制した三井が第4戦以来3回目の優勝を飾りました。3位には野村が入賞しました。

【FIA-F4選手権シリーズ第7戦・レース結果】

- #5 三井 優介 決勝1位 (32分03秒240 ベストタイム 2分10秒725)
- #6 野村 勇斗 決勝3位 (32分04秒252 ベストタイム 2分10秒604、ファステストラップ)
- #7 森山 冬星 決勝 (リタイア)

■第8戦決勝レース（11周）：天候/晴一夜明けた8月27日（日）の朝は、過ごしやすいとはいえ午前9時には気温30℃、路面温度40℃に達し、前日に続き厳しいコンディションとなり、午前9時35分に第8戦の決勝レースが始まった。



前日に引き続き、三井はポールポジションからうまくスタート加速しトップの座を守ったまま1コーナーに飛び込みました。また2番手スタートの野村も僅差で三井に続きましたが、7番手スタートの森山は加速に出遅れ、9番手へポジションを下げてレースを始めました。森山は、第7戦のアクシデントでタイヤを壊していたため、フラットスポットの生じたタイヤで闘わざるをえず、8番手争いの集団で接近戦に入りましたが苦しい闘いを強いられることになりました。

2周目に入るところで3番手の中村が野村に並び係り前に出ようとしたのですが2コーナーに向けてオーバーラン、野村は2番手のポジションを守りました。そこから野村はペースアップ、トップを走る三井との間隔をわずかずつ縮めますが、5周目に2コーナーでアクシデントが発生、セーフティーカーが介入しました。

この段階でトップは三井が守り、2番手に野村、9番手に森山がつけていました。レースは8周目から再開されました。今回、三井は第7戦のリスタートと異なり、130R立ち上がりから早めに加速し、うまくストレートへ抜け出してトップを堅持したままレースを始めました。



2番手野村は、後方で3番手争いが激化したため楽な状況となり、三井のコンマ6秒から7秒の間隔を保って2番手を守り、その後方では森山がなんとかポジションを上げようと前走車に激しくアタックを繰り返しますがなかなか思い通りのオーバーテイクはできません。



こうして三井は危なげなくトップを守ったまま11周を走りきって今季4回目の優勝を第7戦からの連続ポールのウインで飾りました。2位にはレース中ファステストラップを記録した野村が続き、ようやく前へ抜け出した森山が9位に入賞し、それぞれシリーズポイントを獲得しました。

この結果、シーズンポイントランキングでは連続ポールのウインで今季4勝目を挙げた三井が通算ポイントを一気に伸ばしてランキングトップの小林に6点差のランキング2位に浮上、野村は

三井と10点差の3番手、森山は5番手となりました。チームも2番手ながらトップのTGR-DC Racing Schoolに10点差と迫りました。

【FIA-F4選手権シリーズ第8戦・レース結果】

- | | | | |
|----------|------------------|--------|----------------------|
| #5 三井 優介 | 決勝1位 (26分26秒054) | ベストタイム | 2分09秒865) |
| #6 野村 勇斗 | 決勝2位 (26分26秒670) | ベストタイム | 2分09秒696 (ファステストラップ) |
| #7 森山 冬星 | 決勝9位 (26分33秒522) | ベストタイム | 2分10秒435) |

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2023 シーズン第8 戦終了時点)

2 番手 #5 三井 優介 124 点

3 番手 #6 野村 勇斗 114 点

5 番手 #7 森山 冬星 62 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2023 シーズン第8 戦終了時点)

2 番手 HFDP 153 点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 三井 優介



予選では、鈴鹿では富士のようにスリップストリームがあまり利かないので、タイヤをゆっくりウォームアップして単独でアタックしようとポジションに気を配りました。B 組は路温が上がって不利かなとは思いますが、とにかく B



組のトップにはなろうと思いきりプッシュしたんですが、意外とタイムが伸びて結果的に総合ポールポジションも獲れました。鈴鹿はポールが非常に有利なコースなので良かったです。第7 戦のセーフティカーからのリスタートに関しては、練習からシケインでの速さに自信がなかったのでシケイン立ち上がりで近づかれないように加速をギリギリまで遅らせましたが、それでシケインの速さにも自信が出来たので、第8 戦では手前から加速を始めました。第8 戦は、スタートで少しミスはありましたが、うまくリードを築いてレースをうまくまとめられたと思います。去年も含めて、木曜日の練習からずっと調子が良かったのは初めてで、そういう流れの作り方を学んだ週末でした。次の大会も、木曜日の入り日から良い流れを作っていこうと思います。

●ドライバーズコメント : #6 HFDP RACING 野村 勇斗



予選では、A 組でトップになれてすごく嬉しかったんですけど、B 組の三井選手にポールポジションを獲られてしまって悔しかったです。まだここでポールポジションが獲れていませんからどうしても欲しかったです。第7 戦で3 位だったので第8 戦では絶対勝とうと思って挑みました。1 周目、中村選手に危うく抜かれそうになったんですけど、中村選手が若干前

に出てまずいなと思ったとき姿勢を崩したのでそのチャンスにイン側に入ることができて押さえきりました。この部分はうまく対処できたなと思います。その後のペースも良い感じに走っていたので、1 周目さえもっと前から離れなければチャンスはあったかなと悔しいです。週末を振り返ると、やっぱりもう1 歩足りないという感じでした。これは次にむけて改善しないといけません。仕掛けていくチャンスをもっとうまく作るとか、そういうところで上達する必要があります。次の大会が開催されるスポーツランド SUGO を走るのは初めてですが、すごくテクニカルな印象があります。しっかりとアジャストして、優勝争いして勝てるように頑張ります。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 森山 冬星



予選に関しては、もしかしたらトップへ行けるかもしれないと感じるほど調子が良かったんですが、いろいろ噛み合わなくてタイミングも悪くて、前に詰まったり、いいタイミングでアタックできず1周待ってしまったりしてしまいました。次、2度同じことしないように反省します。

第7戦はクラッシュで終わってしまいました。あれがなければ、3位、4位が見えていたので残念です。原因については相手にペナルティが出ましたが、確かに相手が悪いかもしれないとはいえ、そこにいた自分にも非があります。先頭を走っていればあんなことは起きないと思うので、やっぱり自分にとっては予選が課題なんだなと痛感しました。第8戦は、第7戦のクラッシュでタイヤが結構壊れてしまって、規則で1本は交換できたんですけど、他の3本は昨日のままだったのでほんとにきついレースになりました。それでもシリーズポイントは獲れたので良かったです。自分のとりえはアグレッシブな走りなので、まだシーズンは残っていますし、ガンガン行くだけです。頑張ります。

